

機動的な調査観測に関する調査観測計画の要点（素案）

1) 基本的な考え方

実施目的

- ・ 基盤的な調査観測のみでは捉えることができない変動現象の把握
- ・ 噴火の場所や様式の予測の精度向上

実施方針

- ・ 噴出物、火山ガス、熱観測等の常時観測がしにくい調査観測項目を観測
- ・ 地震活動や地殻変動、空振等を集中的な観測点配置により観測し、震源や地殻変動源、空振源を精密に把握

2) 調査観測の現状

- ・ 各機関がそれぞれの目的で機動的な調査観測を実施
- ・ 従来は、噴火時等の火山活動の活発化時等には、各機関による個別対応を基本としつつ、状況に応じて一時的に協力して調査研究を行う体制を構築
- ・ 火山に関する総合的な評価のための機動的な調査観測を効果的・効率的に実施するために、大学、研究機関、関係行政機関が参画する機動的な調査観測・解析グループを防災科学技術研究所に設置
- ・ 火山本部の方針の下で、機動的な調査観測・解析グループが調査観測・解析を実施

3) 今後の計画

- ・ 火山活動に応じて、火山調査委員会機動調査観測部会が調査観測項目を含む実施計画を策定し、機動的な調査観測・解析グループが調査観測を実施
- ・ 緊急時には、機動的な調査観測・解析グループからの緊急観測提案を火山調査委員会委員長が承認することにより、調査観測を実施
- ・ 気象庁は、常時観測網では捉えられない現象の現地観測、常時観測網に加え観測体制を強化するための火山観測機器の設置・観測を実施
- ・ 国土地理院は火山地域や顕著な地殻変動が予想される地域で GEONET を補間する観測を実施
- ・ 機動的な調査観測・解析グループ、気象庁、国土地理院は、機動的な調査観測を連携して実施するための連絡・調整・データ共有を行う仕組みを整備
- ・ 長期間にわたる噴火活動等に対応する機動的な調査観測を実施するための応援体制や後方支援体制を検討
- ・ 様々な機関による機動的な調査観測で得られたデータを火山の総合的な評価に用いるための、観測手法の標準化や品質管理の仕組みの検討
- ・ 迅速な噴出物分析のために物質科学分析体制と連携

- ・ 大学等研究機関がそれぞれの目的で実施する機動的な観測についても、火山に関する総合的な評価のための成果の共有と、連絡・調整・データ共有を行う仕組みへの参画を期待